

南阿蘇 長野岩戸神楽保存会

地域文化活動部門



概要

設立年月 昭和46年10月

会長 長野哲也(ながの てつや)

会員数 19名

住所 南阿蘇村長野465番地

長野阿蘇神社社務所内

主な活動地 南阿蘇村長野

長野岩戸神楽は、古くから神社に奉納されていたものが一時衰退したために、一八五〇年頃に諸国の神楽などのエッセンスを集めて再興されたものといわれています。

長野岩戸神楽は三十三座から組立てられ、毎年五月と十月の年二回、長野阿蘇神社の大祭時に奉納されています。十月の大祭には、屋外神楽「天皇七五三」、通称「竹登りの舞」が行われ、十数メートルの竹竿に登る曲芸風の神楽が地方的特色に富んで見どころとされています。この舞は、動作が速いことや女性の足の運びが能と似ているなどの特徴があり、昭和三十六年に県の重要無形民俗文化財の指定を受け、昭和四十九年には国の選択無形民俗文化財に選ばれています。

このような伝統の舞も、人口流出などにより現代においては伝承が難しくなり、十座前後の上演となっていました。南阿蘇長野岩戸神楽保存会は昭和四十六年の結成後、その伝統ある神楽の伝承・保存を続け、平成四年には会員たちが努力を重ねて三十三座の舞・曲を完全復元し、二月に夜通しで上演しました。完全復元後は地域にとどまらず全国各地、あるいは海外でも公演を行い、地域の伝統文化を全国・海外に発信しています。

また、後継者育成として長野地区の子どもに伝承してきた成果もあって、若手の会員や高校生会員らによる小学生への指導ができるようになってきました。そこで、平成十四年度からは長陽村(当時)教育委員会の「土曜いきいき夢講座」でも指導を始め、村内全域の小学生を対象とした指導に力を注いでいます。このように本保存会は、今後も貴重な伝承文化の担い手として重要な役割を担っていくことが期待されています。

これまでの活動歴

昭和四十六年	十月	南阿蘇 長野岩戸神楽保存会発足 以後長野阿蘇神社春・秋の大祭にて神楽奉納	(一九七二)
昭和五十七年	二月	明治神宮神楽奉納事業出演	(一九八二)
昭和六十年	四月	第三回生深ハイヤ祭郷土芸能祭出演	(一九八五)
平成二年	十月	第三回県民文化祭出演	(一九九〇)
平成四年	二月	三十三座全座復元公演(熊本県立劇場)。衛星テレビ放映。 岩原古墳祭出演。(県立装飾古墳館落成式)	(一九九二)
平成五年	二月	中華民国台南市公演。	(一九九三)
平成六年	七月	北九州わっしょい百万夏まつり出演。	(一九九四)
平成七年	四月	大分県清川村神楽大会出演。	(一九九五)
平成八年	十月	伝承芸能大会出演。(高千穂町)	(一九九六)
平成十年	九月	しまね地域伝統芸能まつり出演。(島根県益田市)	(一九九八)
平成十一年	十二月	「らくらく公演」出演。(旧清和村)	(一九九八)
平成十二年	十二月	大林神社秋祭典出演。(大津町)	(二〇〇〇)
平成十三年	十一月	幕張メッセ電気ふるさと祭出演。(千葉市)	(二〇〇一)
平成十四年		「土曜いきいき夢講座」における指導開始。	(二〇〇二)
平成十五年	二月	お池さん「冬あかり」出演。(西原村)	(二〇〇三)